

「Output」はこのように進めたい (PART 1)

・ これまで Input および Intake の進め方について基本原則を踏まえながら演習を行ってきました。そのような中で Output の部分をどのように進めたらよいかということが話題となりました。そこで、今回と次回の2回で基本原則や実際の進め方を学んでいきましょう。

基本となる考え方

○ Output = 実践的な活動

英語活動の中で、よくOutputの場面を設定している授業を見ますが、実はその多くは、Outputではなく、IntakeのUsing itの場面であることが多いのです。では、OutputとUsing itの違いはどこかと言いますと、Outputは次の4点を持ち合わせなければならないのです。

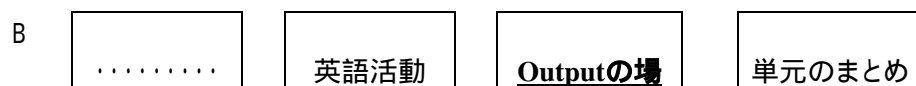
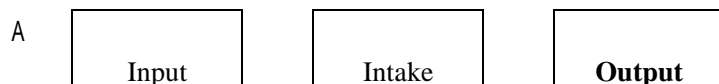
○ Outputの要件

- Personal(直接の)……自分が、直接に、英語でアプローチする
- Creative(創造的な)……表現や考えを自分で生み出す
- Integrated(統合して)……学んだ語彙や文、表現等を統合して表す
- Develops(自発的な)……自分で行おうとする自発的なものであること

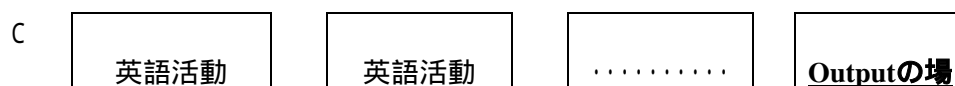
○ Outputの取り入れ方

1時間の英語活動の中に、いつも取り入れなければならないかという決めてそうではありません。位置付けることが可能な場合とそうでないときがあるのです。

- ・ 1時間の英語活動の最後Outputを設定する。
- ・ 国際理解教育等と関連させて、単元のどこかにOutputできる場面を設定する。
- ・ 単元を構成する段階でOutputできる場面があり、それに基づいて英語活動を構成する



(交流会・発表会)



(英語劇・フレンドシップパーティー等の市の行事)

本日は、A の1時間の中に位置付けて行う Input について、演習をしていきましょう。

前回のワークショップで、永井先生が「英語活動を進めるときは、Output を想定してすすめる必要がある。」ということをお話されていましたが、全くその通りです。

小学校低学年のESLクラスでは、様々な絵や道具等を使って、introduction を行います。もちろん Output で求めるもののほんの一部だけを示し(子供たちには期待を抱かせて、そして余韻を残して…)学習活動を展開していきます。

Output 演習

本日の言語材料(新出)

Input

Intake

様々な方法でInputを行い、その後スモールステップの
アクティビティーを組み合わせることでIntakeを進めます。

(本日はこの部分は省略します)

Output
～ 先に示した4観点でチェックしてみましょう！

Reflection

では、Output を想定したTeaching Plan を作ってみましょう(H.W)

本日の言語材料(新出)

Input

Intake

Output

～ 先に示した4観点でチェックしてみましょう！

Reflection

今回は、このシートを
もとに、Output部分の
交流をしてみましょう。
英語活動のヒントや
アイデアがゲットできる
ことと思います。